

道総研【水産】分野 研究職に関心をお持ちの皆様

道総研には幅広い専門分野での活躍フィールドがあります。

水産、海洋、環境、生物等を専攻されている皆様のご応募をお待ちしています！！

【道総研 水産各研究分野での取組事例】

資源管理分野



海の変化を宇宙から捉える

人工衛星データを利用して、広範囲の海洋環境（表面水温、クロロフィル量）を迅速に把握できるウェブサイトを構築しました。浮魚類の漁場環境や二枚貝類の餌環境指標としても有効活用が可能です。また、2021年のような大規模有害赤潮の発生時には、リアルタイムに情報を取得できます。

資源増殖分野



養殖カキの殻に情報を付与する技術の開発

カキは日本全国で養殖されブランド化も進んでいますが、殻の形（外観）から産地や銘柄を見分けることが困難です。そこで、好きな模様や文字を刻んだ付着器上でカキ類を育てることで、殻にロゴをつける技術を開発しました（特許出願済）。これにより、外観から道産カキの識別が可能となり、認知度の向上が期待されます。



マナモコの放流効果の解明と放流技術のマニュアル化

本道太平洋と日本海南西部の沿岸域で放流したマナモコ人工種苗の放流後の成長や生残、移動範囲などの生態を解明するとともに、放流効果を推定しました。また、放流技術マニュアルを作成し、HPで公開しています。

加工利用分野

小型船で漁獲したマイワシの消費拡大に向けた鮮度保持技術の開発

近年、道東海域で豊漁が続くマイワシは、貴重な食糧資源と期待されていますが、鮮度低下が速いため生鮮出荷量は少ない状況です。そこで、マイワシの輸送実態調査及び鮮度に及ぼす要因を解析し、高鮮度流通技術として資料にまとめました。資料は漁業者や流通業者に活用されています。

道産マイワシの鮮度保持技術 -漁獲から流通まで-



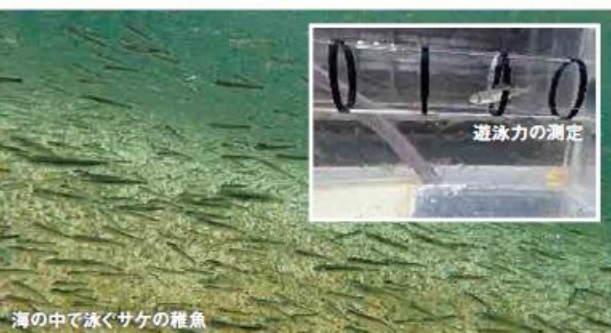
令和5年11月
北海道立総合研究機構水産研究本部

浸漬液を用いたウニの冷凍技術開発

ウニ生殖巣は、そのまま冷凍すると解凍後に著しく身が崩れます。そこで、冷凍浸漬液に漬けたウニを液ごと冷凍することにより、解凍後の身崩れを防止する技術を開発しました。この成果である「ウニ冷凍物及びその製造方法」は、令和5年3月17日に特許登録されました（特許第7246637号）。



さけます資源分野



油脂添加飼料の給餌による回帰率向上

油脂添加飼料の給餌により種苗性（遊泳力、飢餓耐性）向上及び回帰率の向上が確認されました。現在、増殖事業現場における事業規模での実証試験が実施されています。

内水面資源分野



養殖サケマス類に発生するウイルス性疾病の実態解明と防疫対策

道内のサケマス類養殖場で問題となっているウイルス性の疾病「伝染性造血器壊死症」が、遺伝子の変異に起因する可能性を示すとともに、その予防技術として60℃以上、30秒のスチーム処理による養殖施設の消毒方法を開発しました。これにより魚に対して安全に施設消毒を行うことが可能となりました。

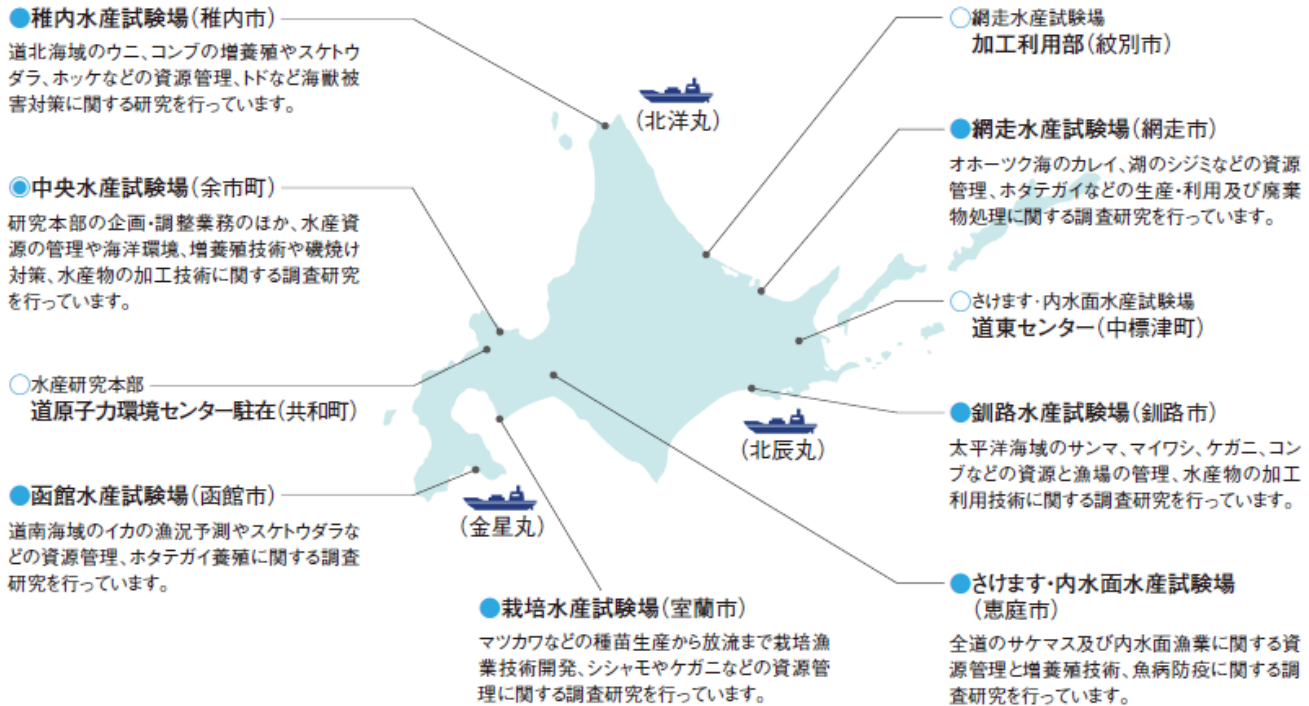


水産研究本部

安定した漁業生産のための資源管理型漁業や栽培漁業の推進、水産物の安全性確保と付加価値の向上、自然との共生を目指した漁業や海域高度利用のための調査研究を行っています。

組織機構

●研究本部設置場所



最近の主な研究開発

1 道東産ニシンを原料とした生食用冷凍素材の開発 (釧路水産試験場、網走水産試験場 R5~R7)

漁獲量が増加しているニシンの高付加価値化を目指し、刺身や寿司など消費者の生食需要に合致したニシンの原料特性の把握と生食用冷凍素材化技術を開発しています。

2 道産ガゴメの生産性を向上する促成養殖生産システムの開発 (函館水産試験場 R3~R6)

函館市を中心とした道南地域におけるガゴメの促成養殖生産技術を開発し、天然物に匹敵する品質の製品を安定供給する生産体系を構築します。

3 深刻化する養殖ホタテガイ大量死発生機序の総理解 (函館水産試験場、中央水産試験場、栽培水産試験場 R5~R7)

養殖ホタテガイの生産不振を防ぐために、大量へい死の原因となる稚貝育成期のストレス要因を解明し、環境変動に応じて安定的に養殖できる技術を開発しています。

4 海洋環境調査研究 (中央、函館、釧路、稚内水産試験場 H1~)

水産資源や漁場に大きく影響する海洋環境の動向を長期的に調査するとともに、有害・貝毒プランクトン発生などの予測技術を開発しています。

5 さけます不漁対策事業 (さけます内水面水産試験場 R4~)

放流稚魚の回帰率を向上させるため、生き残りを高める増殖技術(飼育方法及び放流方法)を開発しています。

6 マツカワ・ヒラメウイルス性神経壊死症の早期診断技術の開発 及びサーベイランス(さけます・内水面水産試験場 R4~R8)

マツカワ・ヒラメウイルス性神経壊死症の被害を未然に防ぐため、放流用種苗における早期診断技術を開発しています。

